

## 第5・6学年 家庭科

### 1 学年の目標

- |   |
|---|
| (1) 家族や家庭，衣食住，消費や環境などについて，日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付けるようにする。      |
| (2) 日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し，様々な解決方法を考え，実践を評価・改善し，考えたことを表現するなど，課題を解決する力を養う。 |
| (3) 家庭生活を大切にすることを育み，家族や地域の人々との関わりを考え，家族の一員として，生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。   |

### 2 内容及び内容の取扱い

#### A 家族・家庭生活

##### (1) 自分の成長と家族・家庭生活

- ア 自分の成長を自覚し，家庭生活と家族の大切さや家庭生活が家族の協力によって営まれることに気付く。

AからCまでの各内容の学習と関連を図り，日常生活における様々な問題について，解決に向けて工夫することが大切であると気付かせるようにする。この項目を第5学年の最初に履修させ，2学年間の学習の見通しをもたせるためのガイダンスとして取り扱う。
--

##### (2) 家庭生活と仕事

- ア 家庭には，家庭生活を支える仕事があり，互いに協力し分担する必要があることや生活時間の有効な使い方について理解する。
- イ 家庭の仕事の計画を考え，工夫する。

イについては，内容の「B衣食住の生活」と関連を図り，衣食住に関わる仕事を具体的に実践できるよう配慮する。
--

##### (3) 家族や地域の人々との関わり

- ア 次のような知識を身に付ける。
- (イ) 家族との触れ合いや団らんの大切さについて理解する。
- (イ) 家庭生活は地域の人々との関わりで成り立っていることが分かり，地域の人々との協力が大切であることを理解する。
- イ 家族や地域の人々とのよりよい関わりについて考え，工夫する。

幼児又は低学年の児童や高齢者など異なる世代の人々との関わりについても扱う。また，イについては，他教科等における学習との関連を図るよう配慮する。
---

##### (4) 家族・家庭生活についての課題と実践

- ア 日常生活から問題を見いだして課題を設定し，よりよい生活を考え，計画を立てて実践できる。

#### B 衣食住の生活

##### (1) 食事の役割

- ア 食事の役割が分かり，日常の食事の大切さと食事の仕方について理解する。
- イ 楽しく食べるために日常の食事の仕方を考え，工夫する。

##### (2) 調理の基礎

ア 次のような知識及び技能を身に付ける。

- (ア) 調理に必要な材料の分量や手順が分かり、調理計画について理解する。
- (イ) 調理に必要な用具や食器の安全で衛生的な取扱い及び加熱用調理器具の安全な取扱いについて理解し、適切に使用できる。
- (ウ) 材料に応じた洗いや、調理に適した切り方、味の付け方、盛り付け、配膳及び後片付けを理解し、適切にできる。
- (エ) 材料に適したゆで方、いため方を理解し、適切にできる。
- (オ) 伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理の仕方を理解し、適切にできる。

イ おいしく食べるために調理計画を考え、調理の仕方を工夫する。

アの(エ)については、ゆでる材料として青菜やじゃがいもなどを扱う。(オ)については、和食の基本となるだしの役割についても触れる。調理に用いる食品は、生の魚や肉は扱わない。安全・衛生に留意し、食物アレルギーについても配慮する。

### (3) 栄養を考えた食事

ア 次のような知識を身に付ける。

- (ア) 体に必要な栄養素の種類と主な働きについて理解する。
- (イ) 食品の栄養的な特徴が分かり、料理や食品を組み合わせるとる必要があることを理解する。
- (ウ) 献立を構成する要素が分かり、1食分の献立作成の方法について理解する。

イ 1食分の献立について栄養のバランスを考え、工夫する。

アの(ア)については、五大栄養素と食品の体内での主な働きを中心に扱うこと。(ウ)については、献立を構成する要素として主食、主菜、副菜について扱う。

食に関する指導については、家庭科の特質に応じて、食育の充実に資するよう配慮する。また、第4学年までの食に関する学習との関連を図る。

### (4) 衣服の着用と手入れ

ア 次のような知識及び技能を身に付ける。

- (ア) 衣服の主な働きが分かり、季節や状況に応じた日常着の快適な着方について理解する。
- (イ) 日常着の手入れが必要であることや、ボタンの付け方及び洗濯の仕方を理解し、適切にできる。

イ 日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫する。

### (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作

ア 次のような知識及び技能を身に付ける。

- (ア) 製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解する。
- (イ) 手縫いやミシン縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解し、適切にできる。

イ 生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画を考え、製作を工夫する。

布を用いた製作は、日常生活で使用する物を入れる袋などの製作を扱う。

調理の基礎、布を用いた製作については、平易な物から段階的に学習できるよう計画する。

### (6) 快適な住まい方

ア 次のような知識及び技能を身に付ける。

(ア) 住まいの主な働きが分かり、季節の変化に合わせた生活の大切さや住まい方について理解する。

(イ) 住まいの整理・整頓や清掃の仕方を理解し、適切にできる。

イ 季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方を考え、適切な住まい方を工夫する。

アの(ア)については、主として暑さ・寒さ、通風・換気、採光及び音を取り上げる。  
暑さ・寒さについては、(4)のアの(ア)の日常着の快適な着方と関連を図る。

「B衣食住の生活」については、日本の伝統的な生活についても扱い、生活文化に気付くことができるよう配慮する。

## C 消費生活・環境

### (1) 物や金銭の使い方と買物

ア 次のような知識及び技能を身に付ける。

(ア) 買物の仕組みや消費者の役割が分かり、物や金銭の大切さと計画的な使い方について理解する。

(イ) 身近な物の選び方、買い方を理解し、購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできる。

イ 購入に必要な情報を活用し、身近な物の選び方、買い方を考え、工夫する。

(1)については、内容の「A家族・家庭生活」の(3)，「B衣食住の生活」の(2)，(5)及び(6)で扱う用具や実習材料などの身近な物を取り上げる。  
アの(ア)については、売買契約の基礎について触れる。

### (2) 環境に配慮した生活

ア 自分の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解する。

イ 環境に配慮した生活についての物の使い方などを考え、工夫する。

## 3 評価の観点の趣旨

観点	観点の趣旨
知識・技能	家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、理解しているとともに、適切にできる。
思考・判断・表現	日常生活の中から問題を見いだして、課題を設定し、様々な課題方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして、課題を解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	生活をよりよくしようとする取組について、課題の解決に向けて、主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。